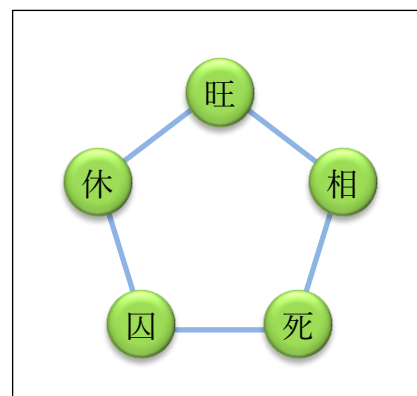


漢法苞徳塾資料	No. 538
区分	基礎理論
タイトル	季節の五行循環〈旺相死囚休〉 王雪苔ほか『針灸学辞典』より
著者	八木素萌
作成日	2000.04.23

	春	夏	長夏	秋	冬
肝	旺	休	囚	死	相
心	相	旺	休	囚	死
脾	死	相	旺	休	囚
肺	囚	死	相	旺	休
腎	休	囚	死	相	旺



それぞれが配当されている季節に適合しているものを【旺】と言う。

この【旺】が生み出しているものが【相=壯】と呼ばれる。

【旺】が剋しているものが【死】と言われ、

【旺】が剋されている所=つまり畏れているものは【囚】と呼んでおり、

【旺】が過ぎ行ったばかりのところは【休】と呼んでいる。

例えば、肝は春に配当されているので、肝は春には【旺】になっていると言うのである。春のすぐ前の季節は冬であるから、「腎は【休】になっている」とか「腎は【休】に入っている」などのように言う。春の【旺】は肝・夏の【旺】は心・長夏の【旺】は脾・秋の【旺】は肺・冬の【旺】は腎と言うように表現する。

〔臨床例〕

春は木〈肝胆〉の【旺】の時である。この時節に咳嗽に苦しむ場合には、「肝経」の経穴〈喘咳寒熱を主どる〉を第一義的に用い、「肝経」と剛柔関係にある「手陽明大腸経」の経穴〈喘咳寒熱を主どる〉を用いるのである。また、この季節の病は基本的には「温病」であるから「風」の経でもある「足少陽胆経」の〈風市〉穴と「胆経」の経穴〈陽輔〉穴を用いる、そして、「胆経」と剛柔関係にある「足太陰脾経」の穴を用いる。そして〈肺腧〉と〈脾腧〉を補すのである。

春一立春から陰暦の立夏の前日まで。

相=壯と記しているものあり

相生相剋の關係と時節循環の關係とを結合させた論である。

『普濟方』卷411に記述されていると述べられているが表現が異なっている。

五蔵を五行に配当し、それぞれが時節の循環に合わせ循環して行く訳である。

「……以五臓配合五行・各有所合の時令・当令者為旺・生旺者為相・克旺者為死・被克者為囚・過令者為休（又稱廢）。……旺月有疾可宣泄・相月不宜補養・死月宜補・囚月・休月宜補忌瀉……」
出《普濟方》

◇五行循環

	旺	相	死	囚	休
春	木	火	土	金	水
夏	火	土	金	水	木
長夏	土	金	水	木	火
秋	金	水	木	火	土
冬	水	木	火	土	金

『普濟方』

「五臓相月

冬三月（木相）。春三月（火相）。夏三月（土相）。季夏（六月金相）。秋三月（水相並不宜補養）。

五臓王月

春三月。夏三月。季夏六月。秋三月。冬三月（有疾可宣泄）。

五臓廢月

夏三月（木廢）。季夏（六月。火廢）。秋三日（土廢）。冬三月（金廢）。春三月（水廢。宜補忌泄）。

五臓囚月

季夏（六月。木囚）秋三月（火囚）。冬三月（土囚）。春三月（金囚）。夏三月（水囚宜補忌泄）

五臓死月

秋三月（木死）。冬三月（火死）。春三月（土死）。夏三月（金死）。季夏（六月。水死。宜補）。」

【旺】月に疾が有れば宜しく「泄」の方法が行われるべきである。

【相=壯】月には「補養」は宜しくない。

【死】月は「補」法が良い。

【囚】月と【休】月には宜しく「補」すべきで「瀉」すことは忌むべきである。